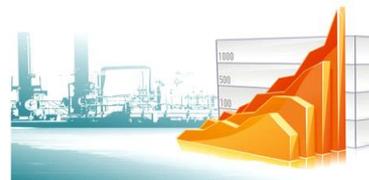


ぎふ経済レポート



平成29年10月分
岐阜県商工労働部

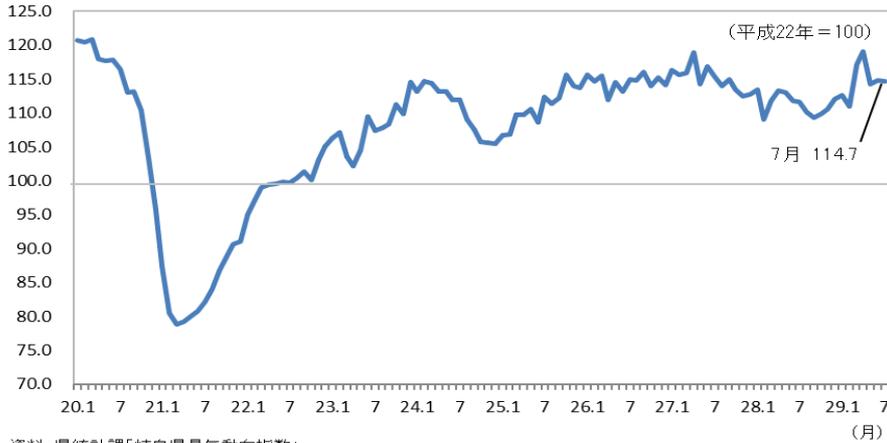
※企業等へのヒアリングは 10月26日～30日を中心に実施し、11月9日に作成。

景気動向

- 7月の景気動向指数(一致指数)は、114.7と前月比0.1ポイント下降した。
- 9月の県内中小企業の景況感は、マイナス16と前月比プラス3ポイント改善。平成27年11月以来の水準となる。

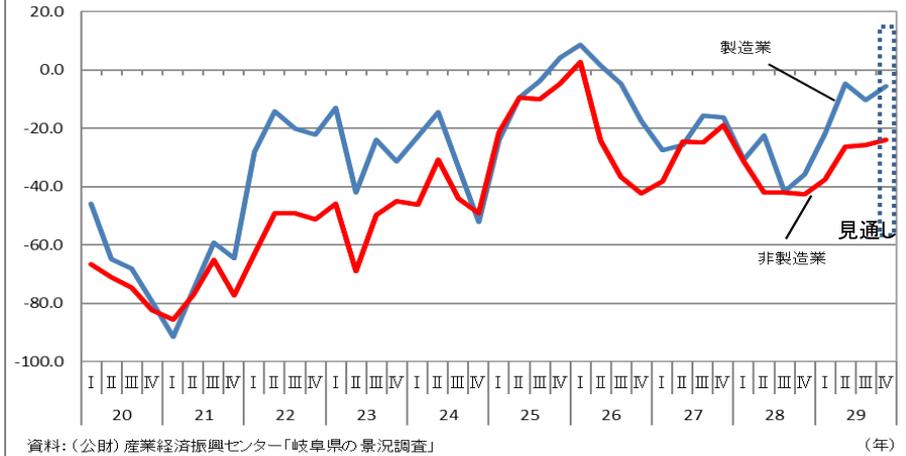
- 平成29年10-12月期の景況感見通しは、製造業で4.5ポイント改善、非製造業も1.9ポイント改善する見通し。
- 採算DIIは、製造業が8.4ポイント、非製造業は2.0ポイント、それぞれ改善する見通し。

岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



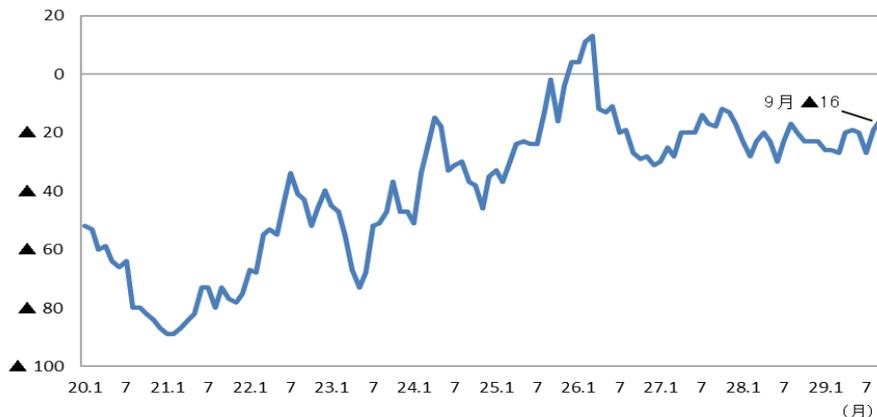
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」

県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



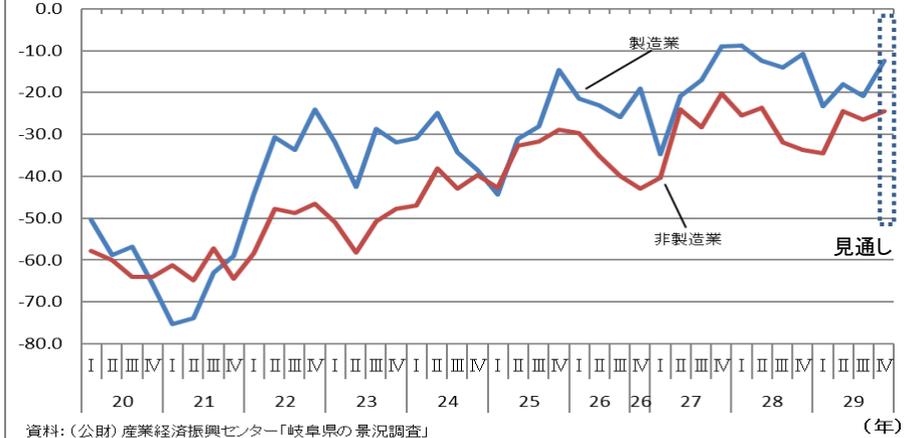
資料: (公財) 産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」

県内企業の採算DI(増加-減少)の推移



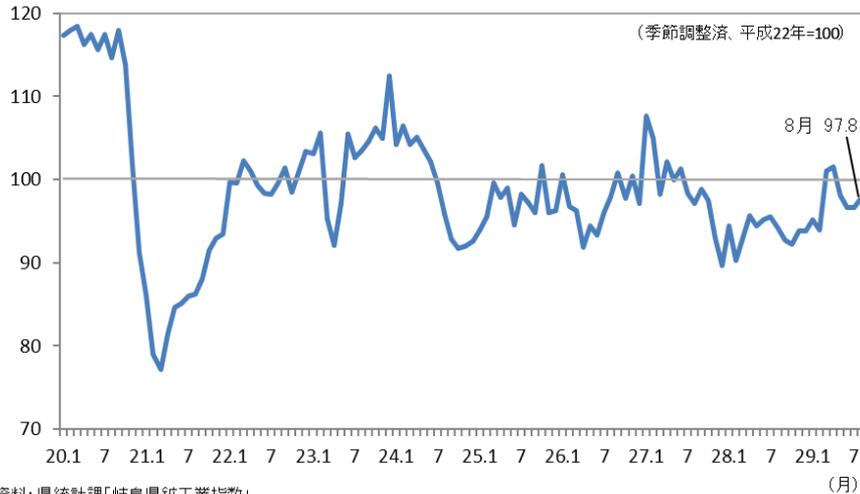
資料: (公財) 産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

製造業

- 8月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、97.8と前月比プラス1.2ポイント改善。
- 業種により強弱まちまちだが、電気機械や輸送用機械がけん引する形で上昇した。

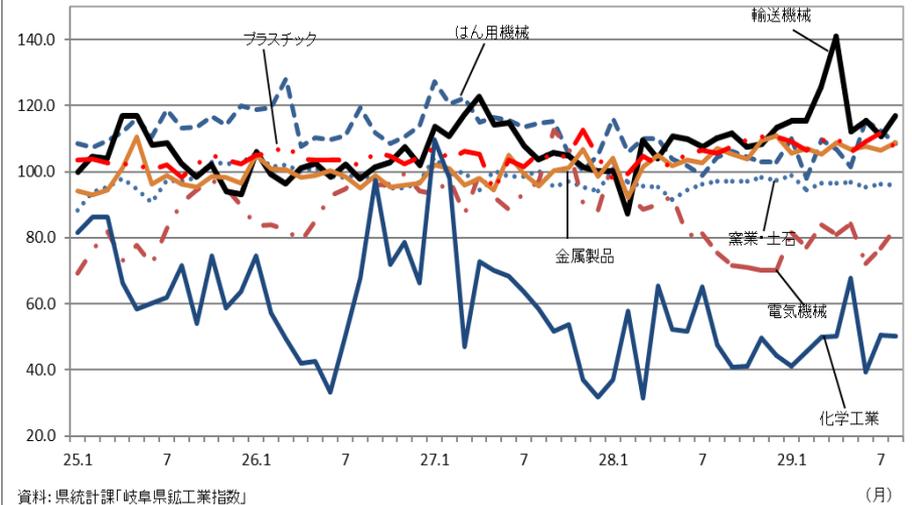
- 8月の主な産業の指数は、前月比で電気機械が8.2ポイント、輸送用機械が5.5ポイント、金属製品が2.2ポイントそれぞれ改善。一方、はん用機械とプラスチックは反動減がみられる。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



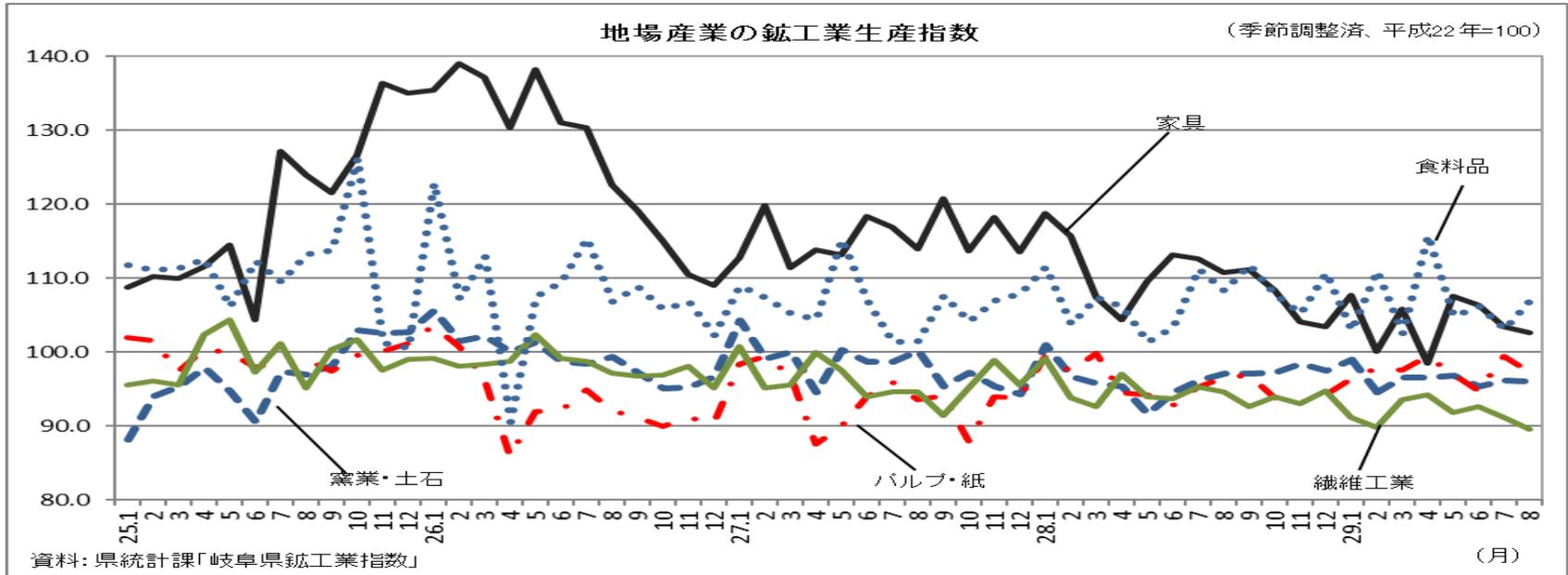
現場の動き

- ◆受注を捌けないような状態で、売上は3~5%ずつ増加している。新設した工場もフル稼働の状態。(輸送用機械)
- ◆10月の売上はさらに良くなっている。エンジン部品やカーエアコン、アジア向けのクーラーが好調。(輸送用機械)
- ◆売上・受注とも堅調な状況が続いている。自転車部品は良くないが、自動車部品が堅調。(非鉄金属)
- ◆売上高は対前年同月比20.1%増加。北米及び中国向けの産業機械、建設機械、農機具部品の受注が伸びている。自動車部品は一部の人気車種以外は減少傾向。(生産用機械)
- ◆売上は対前年同期比30~50%程度増加しており、来年春ごろまで手一杯の状況。要因は物流機械関係等で人手不足に対応するための自動化、標準化を目的とした設備投資が進展してきたこと。(生産用機械)
- ◆今期の決算は前期比30%増加する見込み。中国向けの工作機械の受注が好調であることが要因。(金属製品)
- ◆電子基盤は低調だが、樹脂部門の液晶パネル向け部品の好調により売上高は6.2%増加。(プラスチック)

製造業-2

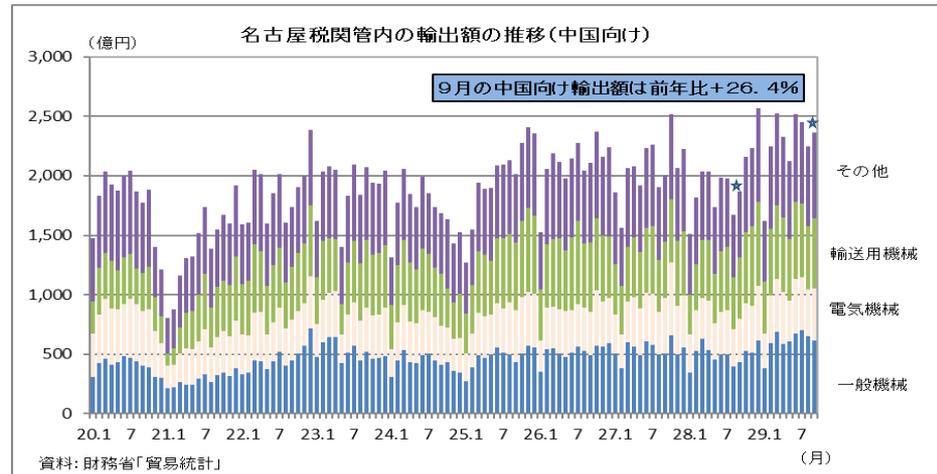
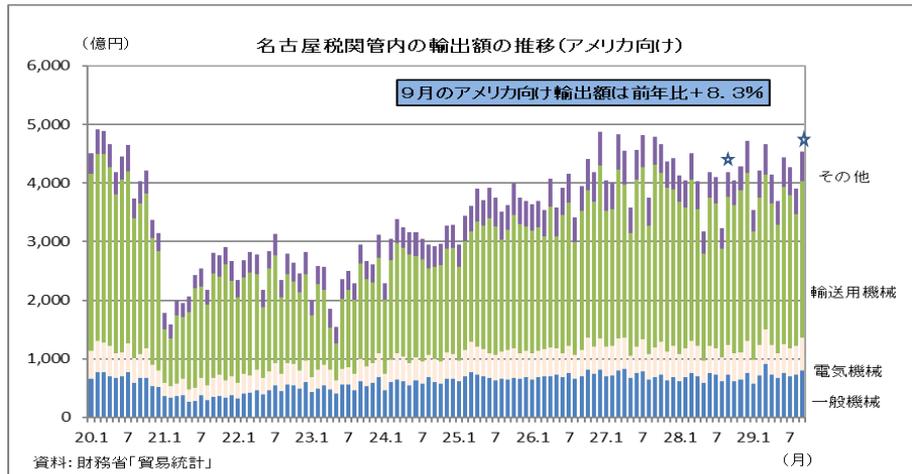
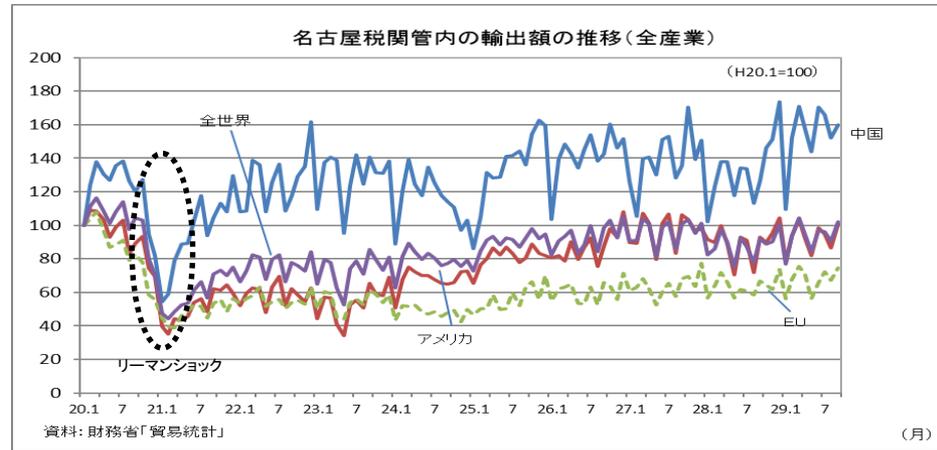
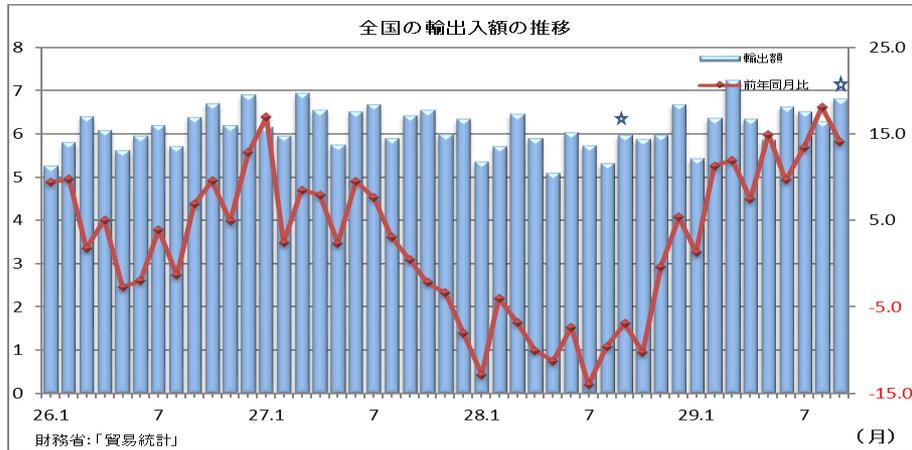
○8月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、食料品が前月比3.8ポイント増加し106.9ポイントとなったものの、パルプ・紙で2.1ポイント減少し97.3ポイント、繊維工業で2.1ポイント減少し89.5ポイント、家具が0.8ポイント減少し102.6ポイントとなった。

○地場産業の生産は全体的に足踏み感がみられ、引き続き厳しい状況が継続している。



輸 出(名古屋税関管内)

- 9月の輸出額(全国)は、6兆8,110億円と前年同月比14.1%増加し、10ヶ月連続で増加した。
- 9月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆6,279億円で、前年同月比10.9%増加し、8ヶ月連続して前年を上回る。
- うちアメリカ向けは、4,537億円で前年同月比8.3%増加、2ヶ月連続で全産業で前年同月を上回った。
- うち中国向けは、8ヶ月連続で全産業で増加し、全体で同26.4%増加。特に一般機械42.9%増、電気機械20.2%増と引き続き高い伸びを示している。
- 平成29年4-9月期の中国向けは前年同期比24%増加の1兆4,033億円で過去最高を記録。



為替・原油価格等の動向による影響について

- ◆最近の円安基調で売上高は伸びたが、製造コスト(燃料、原材料)の負担も同時に増えた。現状程度の相場なら問題はないが、円安が進みすぎるのは困る。(輸送用機械)
- ◆原材料が上がってきている。取引先から支払われている原料費と比較し、逆ざやになりそうである。(輸送用機械)
- ◆原材料、燃料費が上昇基調にあるため、利益率を圧迫してきている。(非鉄金属)
- ◆ガソリンが前年比10円程度上がっており、年末に向けてまだ上がることが予想され、注視している。(運輸業)

自動車業界のEV化への取組み・影響について

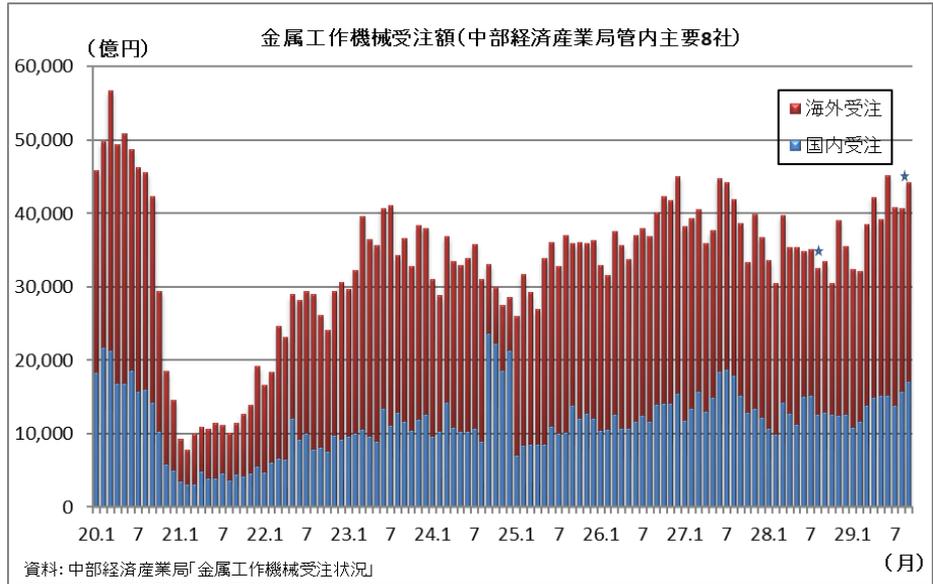
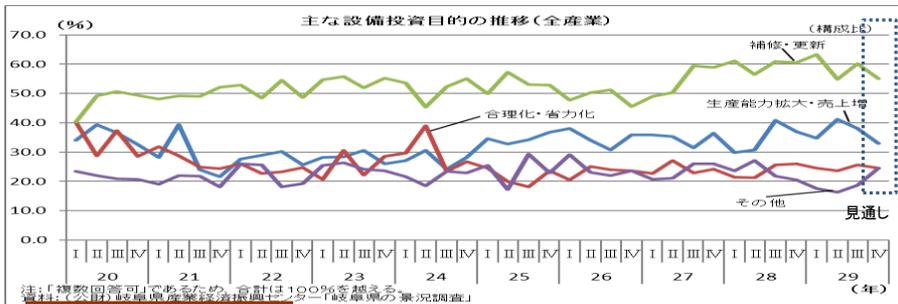
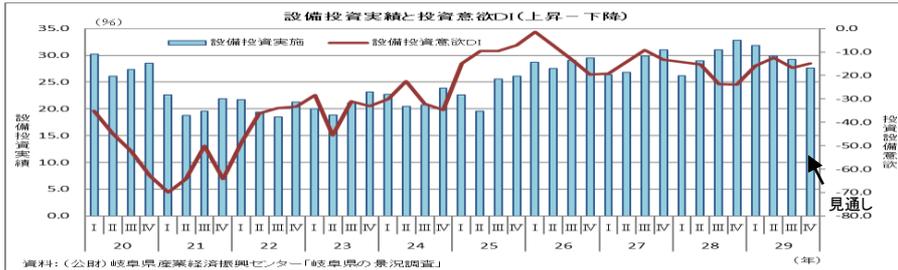
- ◆EV化によって当社製品の一部には影響がある。しかし、EV化によって生まれる新たなニーズもあり、保有技術・製品を活かし様々な提案を進めていく。(輸送用機械)
- ◆EVはガソリン車に比べ部品が少なく、当社においても2割減の見込み。その対策もあり航空機産業に進出した。
- ◆取引先からは具体的な要請はないが、他社より早く大手に提案したいため、製品の開発を急いでいる。
- ◆EVや自動運転の普及に伴い、半導体需要の増加が見込まれる。主力商品が半導体関連なので、自動運転の普及やEV化への潮流については業績拡大の期待が持てる。(以上、輸送用機械)
- ◆EV化により既存のエンジン部品メーカーが参入してくるのを見越して、自社の立場を守るために先行して設備投資を行った。(非鉄金属)
- ◆各種プラスチック製品の金型はEVにおいても必要とされる状況。今後の業界動向は注視している。(生産用機械)

業界トピックス・トレンドについて

- ◆神戸製鋼所のデータ改ざん問題が今後どう影響するのか懸念している。
- ◆神戸製鋼所の問題に関し、風評被害や海外の反応が心配。鉄鋼に比べ、アルミや銅は品質管理のシステム化に遅れがある。
- ◆日産やスバルで発覚した不正検査については、他社のことであるが、自動車業界としては信用失墜につながる大きな問題だと思っている。当社としても製品品質に係る検査体制について改めて検査方法を確認している。(以上、輸送用機械)
- ◆運送約款等の改正が来月から実施されるが、中小の運送業者では対応が難しい部分がある。荷主の理解も得られやすい環境になりつつあるが、まだまだという感じである。(運輸業)
- ◆食品表示の主原料の産地表示により、海外から国内原材料へシフトすることが考えられるが、業界各社が国内産へシフトした場合、大豆の供給量が確保できるか疑問。(食料品)
- ◆オリンピックに向けて森林認証材がクローズアップされているが、認証を取得するために費用がかなり掛かるうえに、製品価格に転嫁もできない。認証制度を取得しても採算が取れるような仕組みを整えて欲しい。(製材)

設備投資

- 平成29年10－12月期の設備投資見込みは前期比1.6ポイント減少する見通し。設備投資意欲DIは前期より1.9ポイント増加し、投資意欲が改善する見通し。目的別では、「補修・更新」、「合理化・省力化」、「生産能力拡大・売上増」がそれぞれ減少し、省エネルギー等の「その他」が増加。
- 平成29年9月の金属工作機械受注額は、国内受注は自動車向けが引き続き好調で、前年同月比33.0%増加。海外受注は北米、欧州、アジアが堅調に推移で同31.8%増加。全体では32.3%増加と大幅な伸びを見せた。



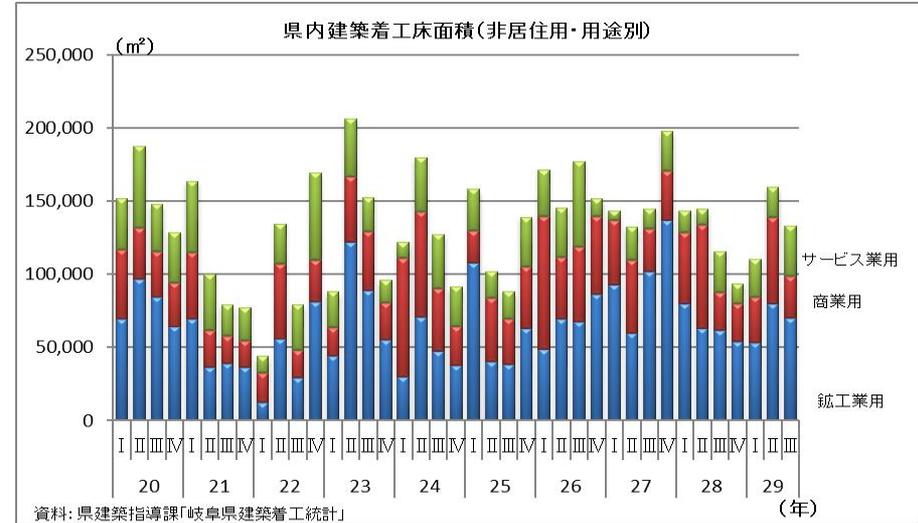
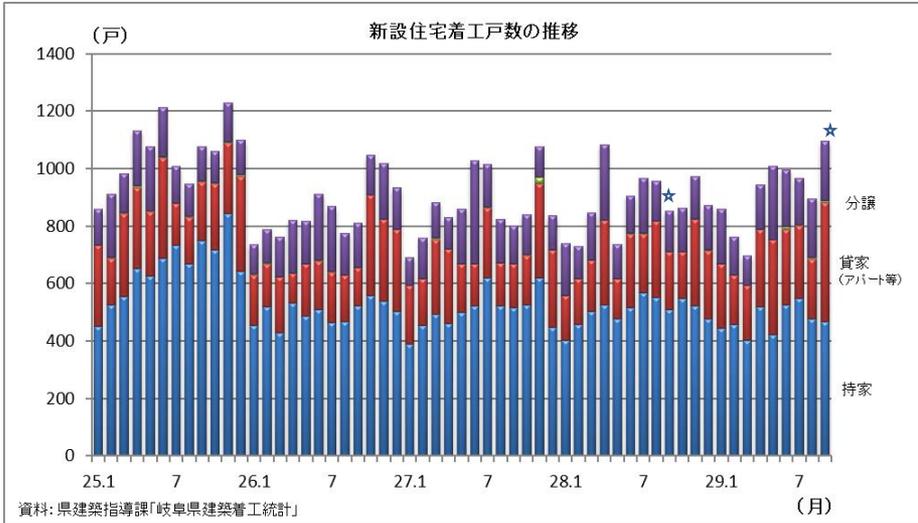
現場の動き

- ◆自動車部品加工の新規受注に対応した設備の導入を11月に予定。新電力への切り替えも予定。(輸送用機械)
- ◆増産に伴い一部ラインを旧工場へ移し、11月から旧工場の稼働を再開する予定。(輸送用機械)
- ◆IoTの導入に向けての準備を今後行っていく。(輸送用機械)
- ◆自動車関係を中心に大口の設備投資も出始めていたが、このところの状況を見ると、活況とは言えない。引き合いは増えてはいるが、受注増に結び付くまでには至っていない感じを受ける。(電気機械)
- ◆今年は設備投資の予定がないが、来年は合理化を目的に実施予定。(刃物)
- ◆需要増加により、機械設備の機能性の向上を検討している。(食品)

住宅・建築投資

- 9月の住宅着工戸数は、前年同月比28.7%増加し、3ヶ月ぶりに増加した。
- 持家が3ヶ月連続で減少、低調に推移しているが、貸家が同105.4%、分譲住宅が同46.1%増加するなど、着工戸数は持ち直している。

- 平成29年7-9月期の建築着工床面積は、前年同期比で鉱工業用7.2%、サービス業用5.5%、商業用が同2.4%とそれぞれ増加し、2期連続で増加となっており、商工業面においても建築が活発となっている。

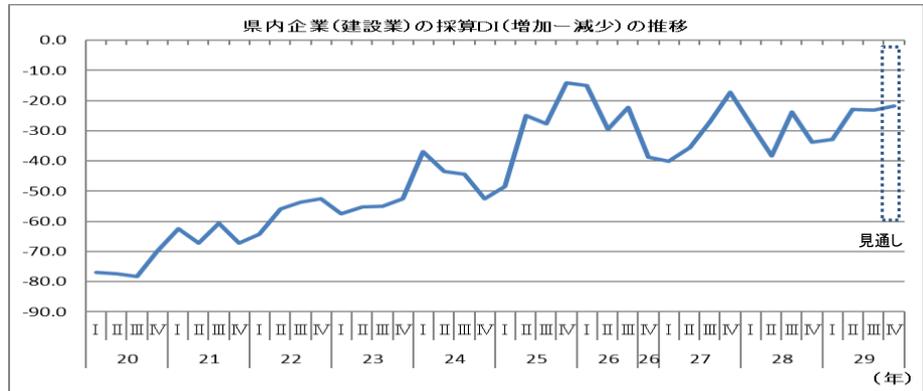
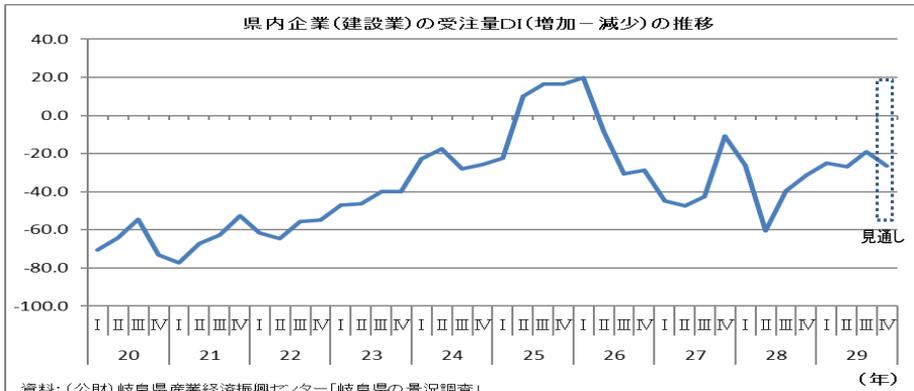
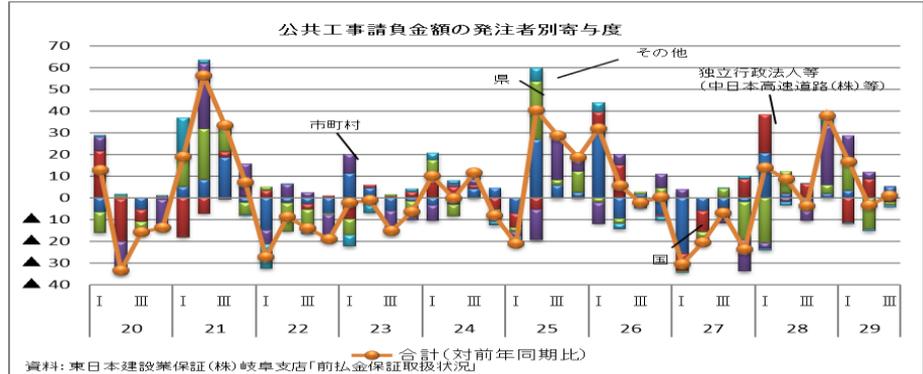
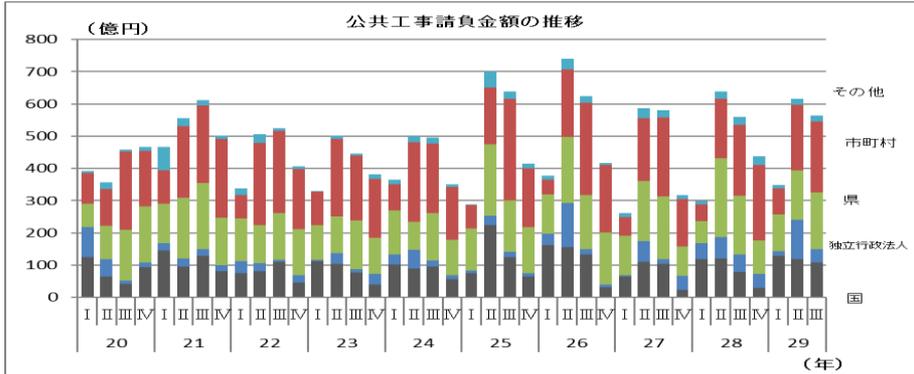


現場の動き

- ◆展示場の集客は例年並み。県内、県外とも受注は前年より若干良好。リフォームも若干増えている。(住宅建設)
- ◆売り先の需要が少ないため、出荷量は例年に比べて極端に少ない。加えて台風や大雨等の天候不順により民間事業者からの出荷量も依然少ない状況が続いている。(木材市場)
- ◆売上は前年同月比で15%ほど減少。材が無く県外から入れているがコストが増加。材が不足で受注を減らした。
- ◆秋需の本格的な時期だが、例年ほどの需要がない。原木も足りない。細いものが出てこない。(以上、製材)
- ◆森林組合からの出材料が例年より落ち込んでいる。近隣県でも同様の状況。A材は引き合いが強いが生産量が追い付いていない。B材は冬場のストックのために計画並みの生産量に引き上げ。C、D材は引き合いはあるものの材は滞留気味。価格はそれぞれすべて横ばい。(森林組合)

公共工事

- 平成29年7－9月期の発注者別の公共工事請負金額は、全体が、前年同月比0.9%の微増。国が同36.1%増加し、市町村は横ばい推移となったものの、独立行政法人及び県は減少となった。
- 県内建設業の平成29年10－12期の受注量DIは前期比7.6ポイント悪化する見通し。一方で、同採算DIは1.5ポイント改善する見通し。



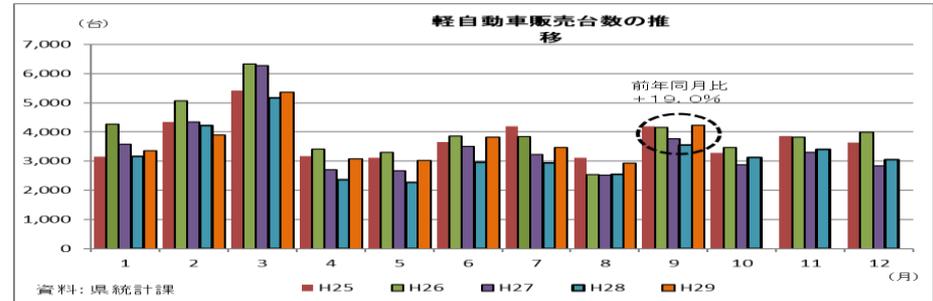
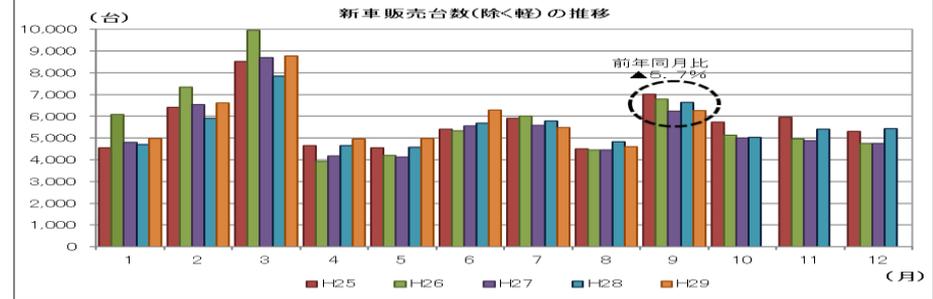
現場の動き

- ◆県内も含め東海地区の受注状況が良く、昨年以上の景況感。
- ◆今後の補正予算の状況が気になるが、発注のタイミング、工事の平準化を意識したものにしてもらいたい。
- ◆土木部門に比べ、建築部門は働き方改革への動きが鈍い。
- ◆働き方改革の一環で、ベースアップ以上の賃上げをしている。(以上、建設業者)

個人消費(流通・小売)

- 8月の大型小売店販売額は、前年同月比で0.5%増加し、2ヶ月ぶりにプラス圏となる。
- コンビニエンスストアの8月の販売額は、前年同月比1.9%の増加と、堅調に推移している。
- 小売り業界には持ち直しの動きがみられる。

- 9月の新車販売(除く軽)は、前年同月比5.7%減少し、3ヶ月連続で前年を下回った。
- 軽自動車は、同19.0%増加と7ヶ月連続で前年同月を上回っている。
- 合算では前年同月比2.9%増加となっている。



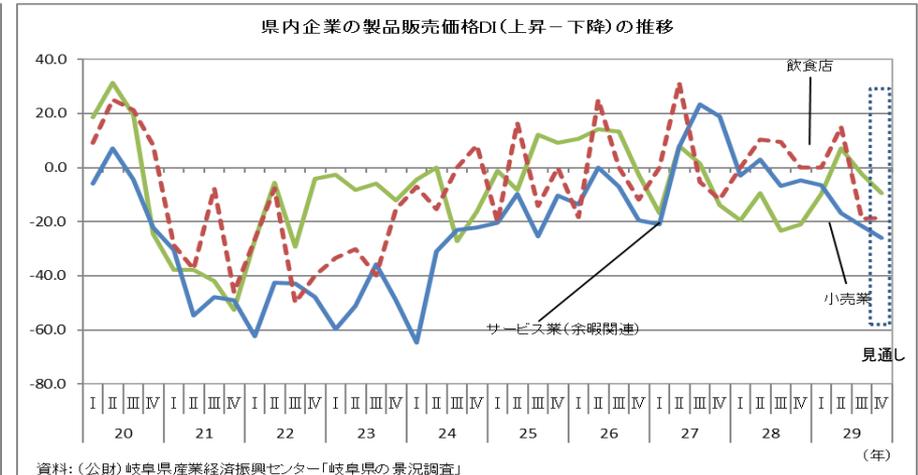
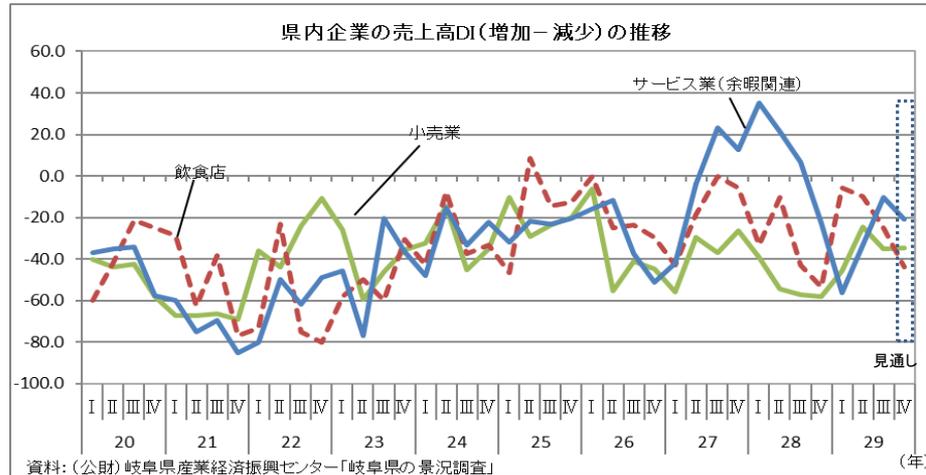
現場の動き

- ◆10月の売上は好調で、7%増加。専門店のみでは同13%増加。新車販売は同10%減少、サービス売上は同20%減少したが、ともに理由は不明。映画は昨年のビッグヒットの反動減で同40%程度減少しており、1月くらいまでは落ち込む見込み。(岐阜市大型商業施設)
- ◆売上は同2%増加。衣料が同8%増加と久しぶりに衣料の売上が上がった。寒い日が続き秋冬物が売れたことが要因。また、住居関連、専門店各1%増とそれぞれ売上を伸ばしている。(大垣市大型商業施設)
- ◆1店舗当たりの9月の売上は同1%増加、客数は同3%増加。ブランド転換により売上改善傾向。(コンビニ)
- ◆近隣の競合店オープンにより9月の売上は前年同月比9%減少。客数7%減少。iphoneXには期待。(家電)

(※数字は前年同月比)

個人消費(流通・小売)ー2

- 平成29年10ー12月期の売上高DIは、小売業で前期比0.7ポイント改善する見通しだが、飲食店は同18.8ポイント、サービス業(余暇関連)では同10.3ポイントそれぞれ悪化する見通し。
- 同じく販売価格DIについては飲食店で横ばい推移となるも、小売業で7.0ポイント、サービス業で4.4ポイントそれぞれ悪化する見通しで、個人消費については厳しい見通しとなっている。



現場の動き

(※数字は前年同月比)

- ◆入館者数は前年同月比を上回る見込み。館全体売上については5ヶ月ぶりに前年同月を下回る見込み。
- ◆ファッションは前年を若干上回るが、サービス、飲食、食料品、物販は前年を下回る見込み。(以上、アクティブG)
- ◆和菓子店の売上は5%減少。アクセサリーは長良川おんぱくの影響で同28%増加。飲食店は5%減少。
- ◆台風や雨が続いた影響で、10月は全体的に人通りが少なかった。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆元気ハツラツ市や十万石まつりは天気が良く大盛況であったが、台風の影響で浸水の被害もあった。
- ◆急な気温低下で婦人服店売上10%増加。土日の天候不順が多く和菓子店は同20%減。(以上、大垣市商店街)
- ◆秋の高山祭り以降、観光客が減少している。陶器・お土産店の売上は5%減少。
- ◆衣料品店は例年並みだが、クレジットカードでの支払いが多くキャッシュフローで苦勞する。(以上、高山市商店街)
- ◆イベント「商展街」を開催し、店内に陶芸作家の作品を展示しているので来店客が多く購入に繋がっている。
- ◆酒類販売店の売上は前年並み、子供服店の売上も前年並み。(以上、多治見市商店街)

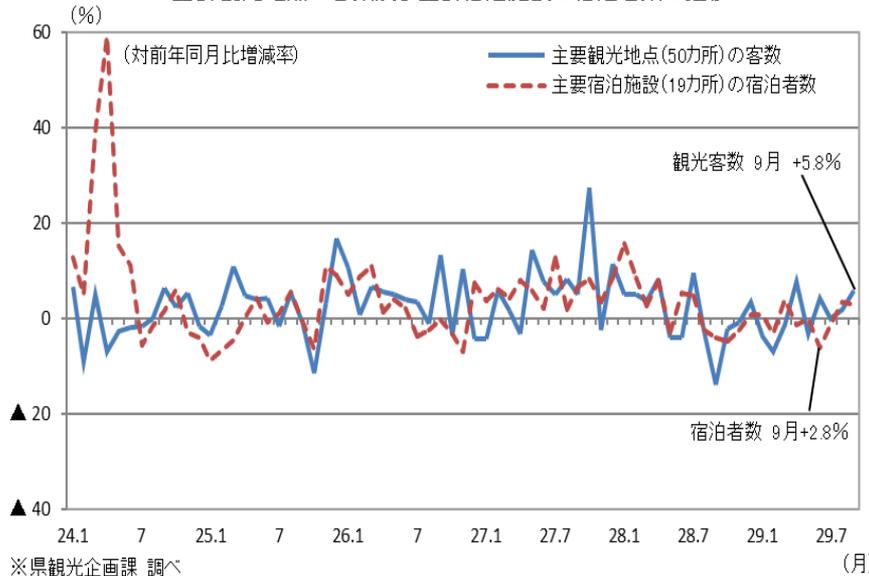
観光

○主要観光地における9月の観光客数は、前年同月比5.8%増加し、2ヶ月連続で前年同月を上回った。

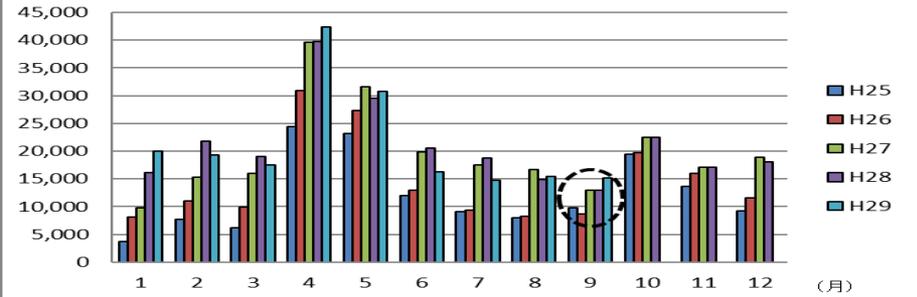
○主要宿泊施設における宿泊者数は、同2.8%増加と2ヶ月連続で前年同月を上回った。

○9月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比の増減率では17.2%増と2ヶ月連続で前年同月を大幅に上回った。

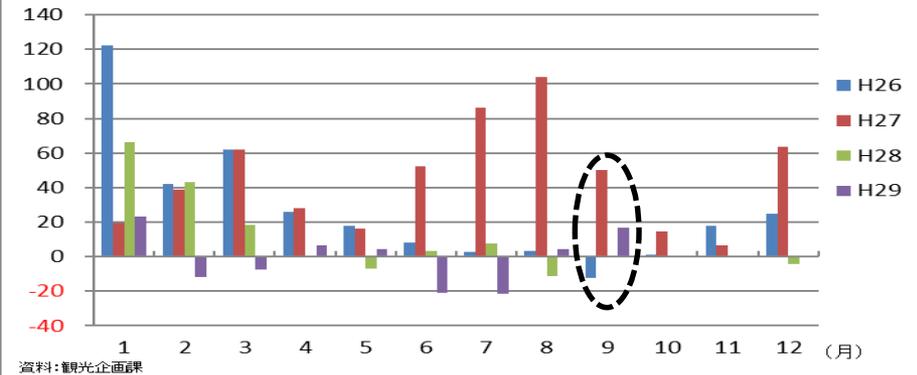
主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客数(対前年比推移)



主要宿泊施設 外国人宿泊客増減率(対前年比推移)

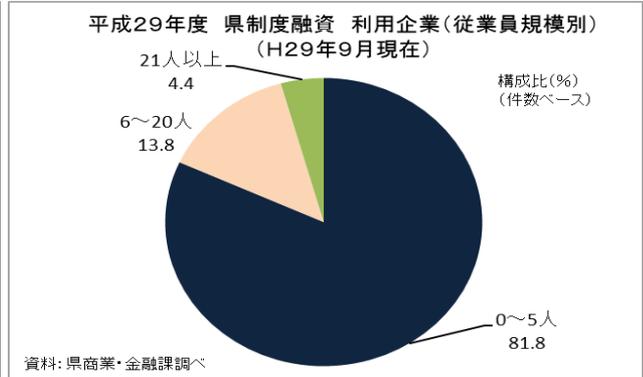
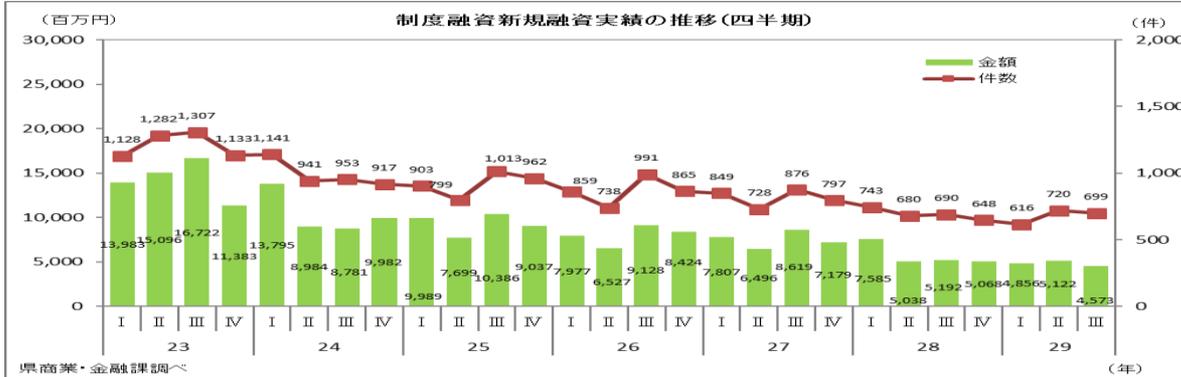
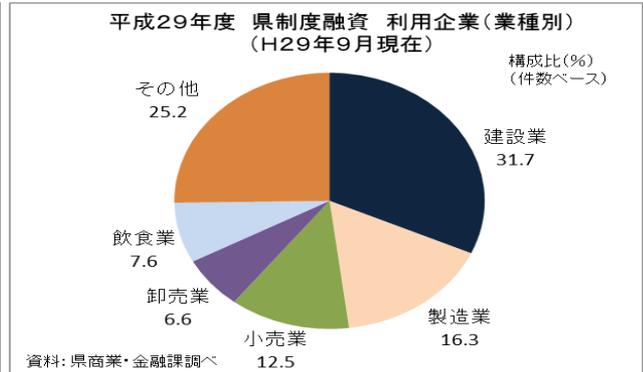


現場の動き

- ◆香港からの宿泊客の伸びが顕著である。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆10、11月は日本人客や団体、スポーツ関係の宿泊客が増加している。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆企業系で連泊の宿泊客が増加傾向にある。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆客単価が高い欧米からの宿泊客が引き続き好調である。(高山市内の宿泊施設)
- ◆トップシーズンのため、団体インバウンドが好調である。(高山市内の宿泊施設)
- ◆台湾が激減しているが、韓国はツアーがあるため増加している。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆10、11月ともに大型団体の予約があるほか、個人客は週末や連休等に集中している。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 9月の岐阜県貸出金残高は、4兆2,239億円で前年同月比3.4%増と引き続き高い伸びを続ける。
- 9月の制度融資実績は、金額が1,633百万円で同6.1%増加。件数は271件で同16.8%増加。
- 平成29年7-9月期の同実績は、金額が前年同期比11.9%減少した一方、件数は同1.3%増加。
- 業種別では建設業が31.7%、製造業が16.3%、小売業が12.5%と3業種で6割以上を占める。

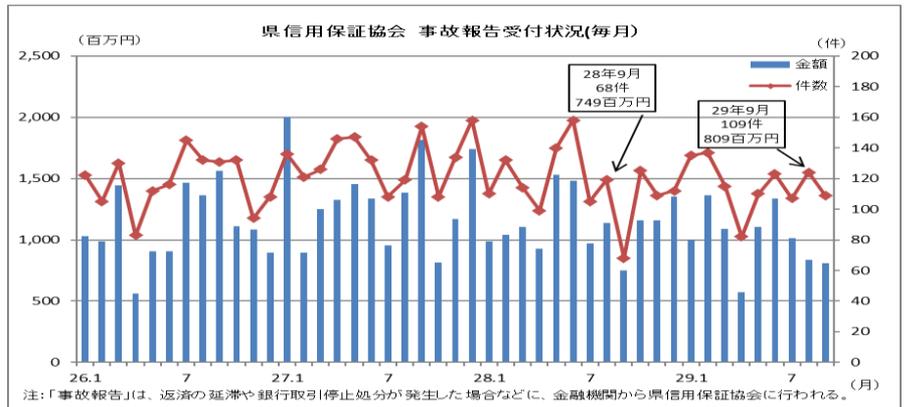
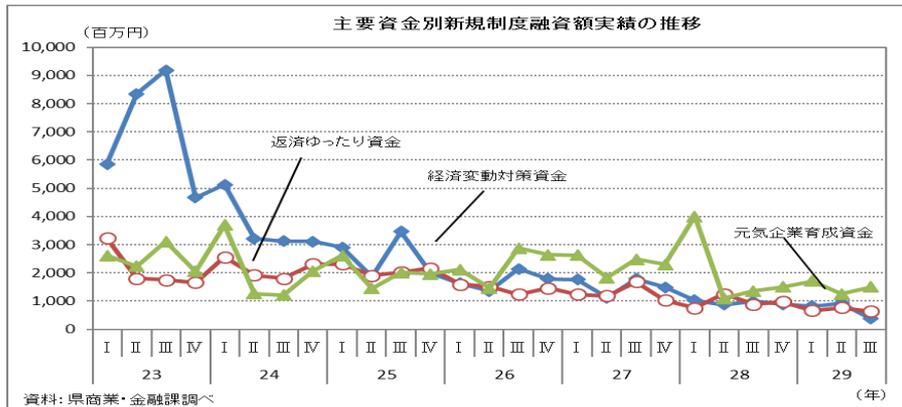
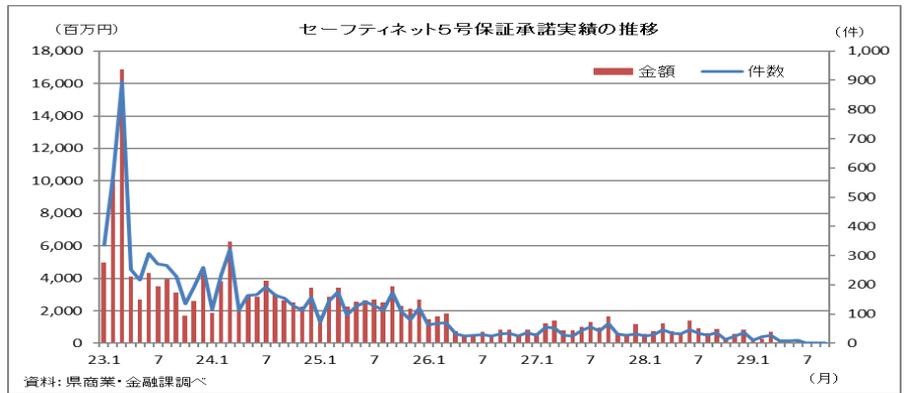
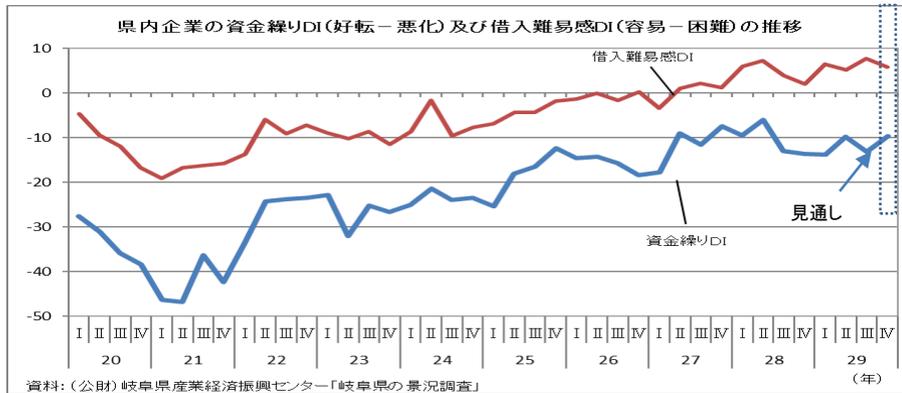


現場の動き

- ◆全国的な流れかもしれないが、医療・介護系では動きがある。人口減少・高齢化を受け、デイサービスからのシフトとして高齢者向けサービス付き賃貸物件の案件が出てきている。アパート経営については一巡してきた模様。
- ◆金融機関として金利が取れない状況が続くが、事業性評価をしてなるべく融資先を拾っていきたい。(以上、金融)
- ◆6次産業化に対する銀行の理解が進んできたのか、融資が受けられやすい状況になってきた。(食品製造)

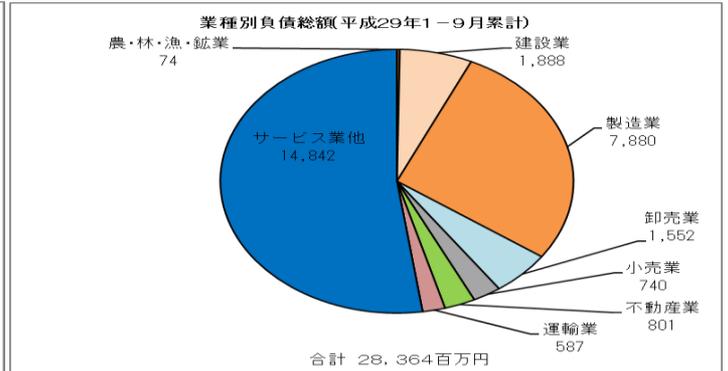
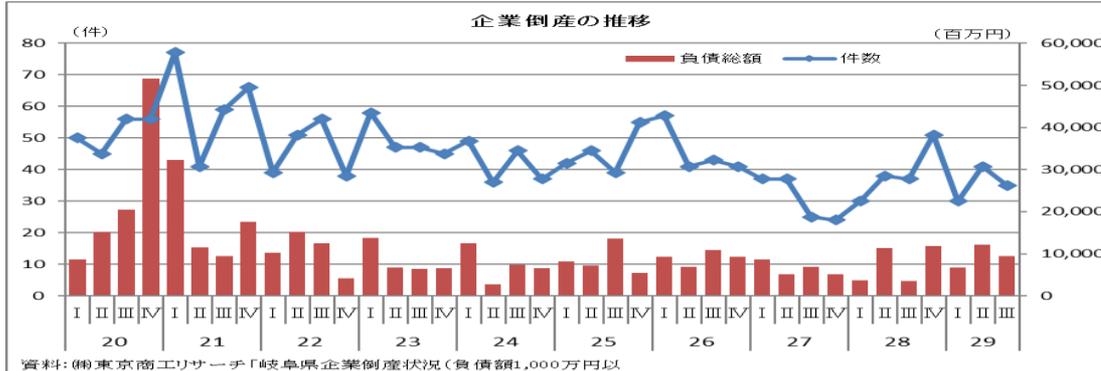
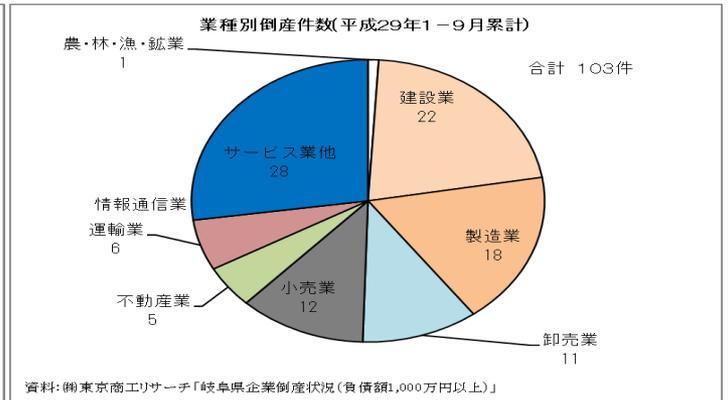
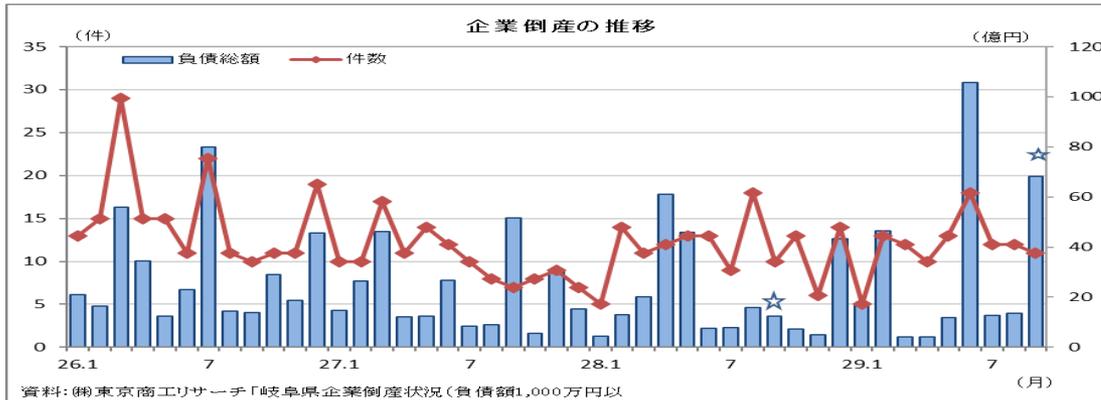
資金繰り-2

- 県内企業の平成29年10-12月期の借入難易感DIは、5.8ポイントと前期比1.9ポイント悪化の見通し。一方で、資金繰りDIは、マイナス9.6ポイントと、同3.5ポイント改善する見通し。
- 平成29年7-9月期の主要資金別新規制度融資実績は、前年同期比で経済変動対策資金が61.9%、返済ゆったり資金が28.0%と大きく減少しているのに対し、元気企業育成資金は同10.2%増加しており、前向きな資金用途へのシフトがみられる。
- セーフティネット5号保証承諾実績は、件数が前年同月比97.3%減少し1件。金額についても同99.6%減少し4百万円と、経済状態が落ち着く中で、利用は非常に低調に推移。
- 平成29年9月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数が109件で前年同月比プラス60.3%と3ヶ月連続で増加。金額は809百万円で同8.0%増加となっている。



倒産

○9月の倒産件数は前年同月比+1件の11件。負債総額は同453.4%(55億91百万円)増加し、68億24百万円。依然小口の倒産が大勢を占めるものの、大口倒産の発生により金額は急増。
○平成29年7-9期は前年同期比で、件数は2件減少したものの、金額は58億57百万円増加した。



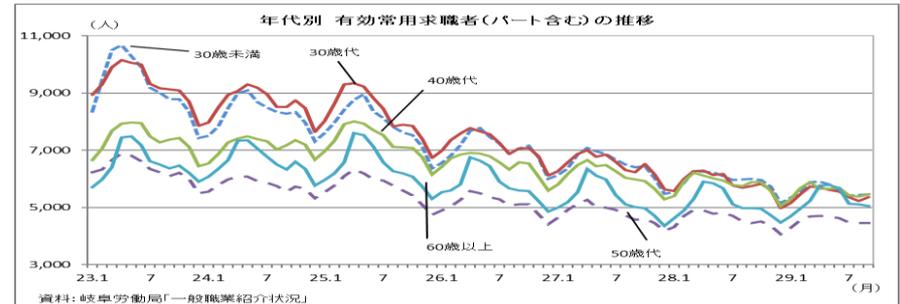
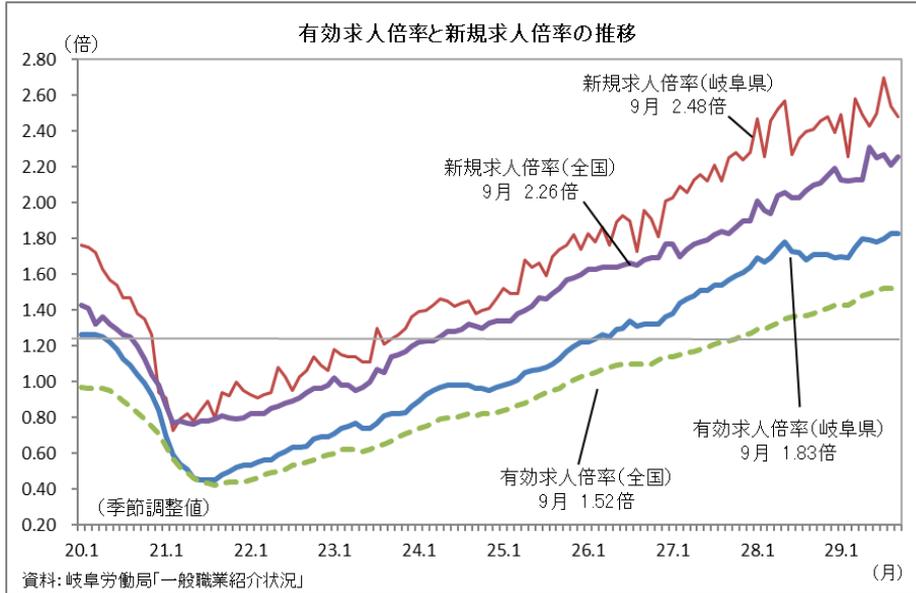
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

◆大口倒産により、負債総額は大幅に増加したが、依然として中小・零細企業の倒産が大勢。金融機関や、国等の資金繰り支援策により、倒産抑制効果を表していたが、抜本的な経営改善が遅れている企業や、政府の支援策等に過度に依存してきた企業は、業務見直しや経営合理化が急務となっている。また、人手不足、消費者の節約志向、運送費や原材料費の上昇分の価格転嫁が進まないなど、中小企業を取り巻く環境は先行きに懸念材料を抱えている。こうした企業の息切れや淘汰により、今後企業倒産が緩やかに増勢に転じる懸念は拭えない。

雇用

- 9月の有効求人倍率は1.83倍と前月比横ばいで推移。全国第7位となる。
- 9月の新規求人倍率は2.48倍と前月より0.06ポイント減少した。

- 9月の雇用保険受給者人員は前年同月比横ばいとなり51ヶ月ぶりに下げ止まった。
- 年代別有効常用求職者では、60歳以上が前年同月比で4ヶ月連続で増加している。



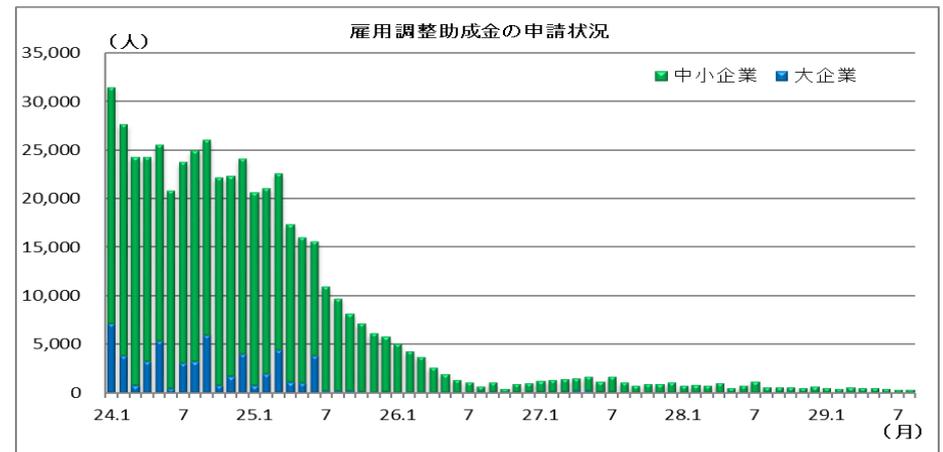
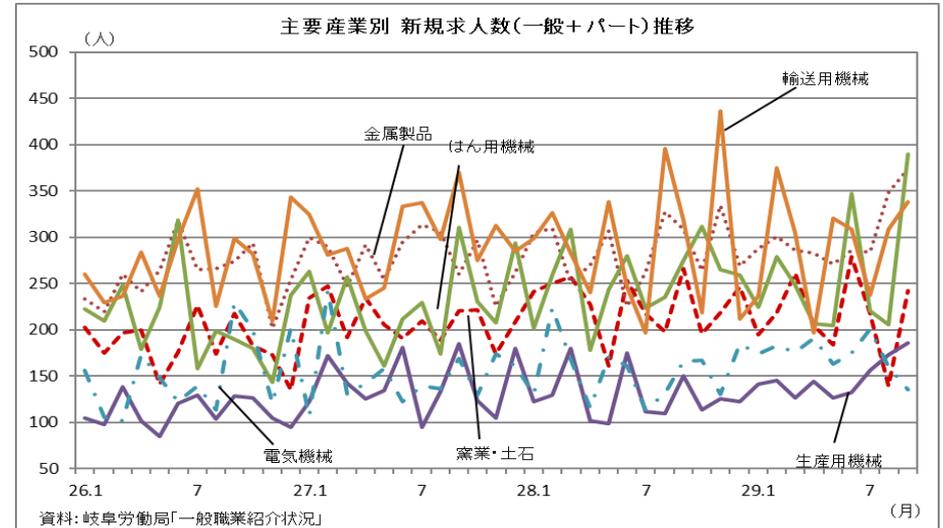
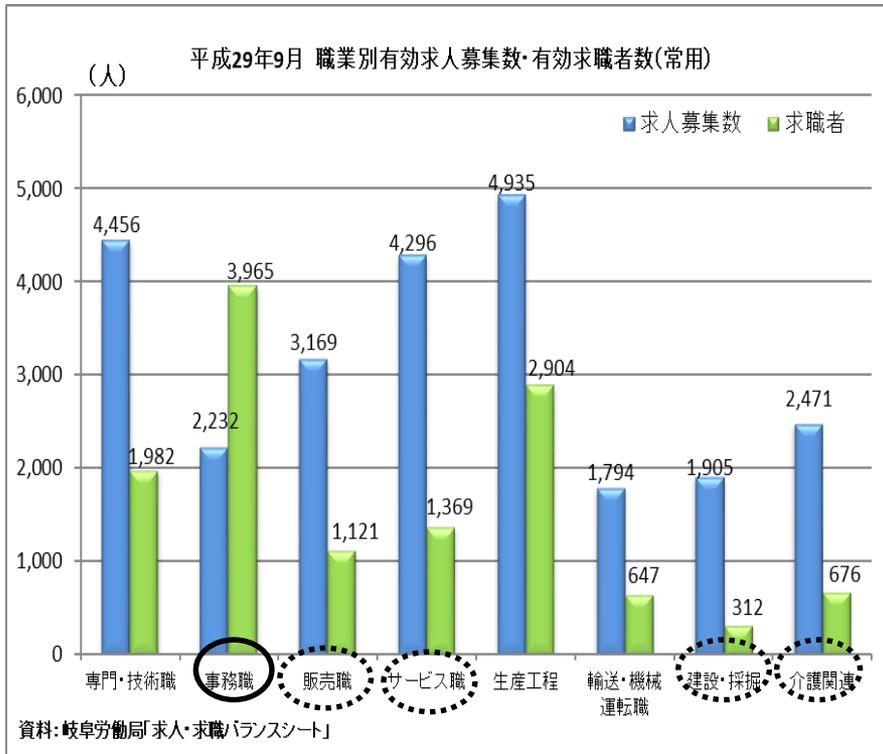
現場の動き

- ◆瑞浪市に大手部品メーカーの進出が決まったが、操業のために相当な人数を採用していくと思うので、さらにこの地域の求人競争が激しくなると思われる。
- ◆愛知県の手製造業から岐阜県の工業高校への求人数も多いため、昨年度と比較すると新卒採用が厳しい。
- ◆最近の傾向としてIT業界に人材が流れ、中小企業で必要な人材が確保できなくなっている。(以上、輸送用機械)
- ◆人材確保が最大の課題。理系大卒は応募者が少なく、高卒も内定者を確保できないなど、厳しい。(非鉄金属)
- ◆外国人労働者(ベトナム人)の雇用を開始したが、大きなトラブルは発生していない。(食料品)
- ◆交通誘導員の不足を感じる。飛騨で影響が大きいことは聞いていたが、都市部でも感じるようになった。(建設)

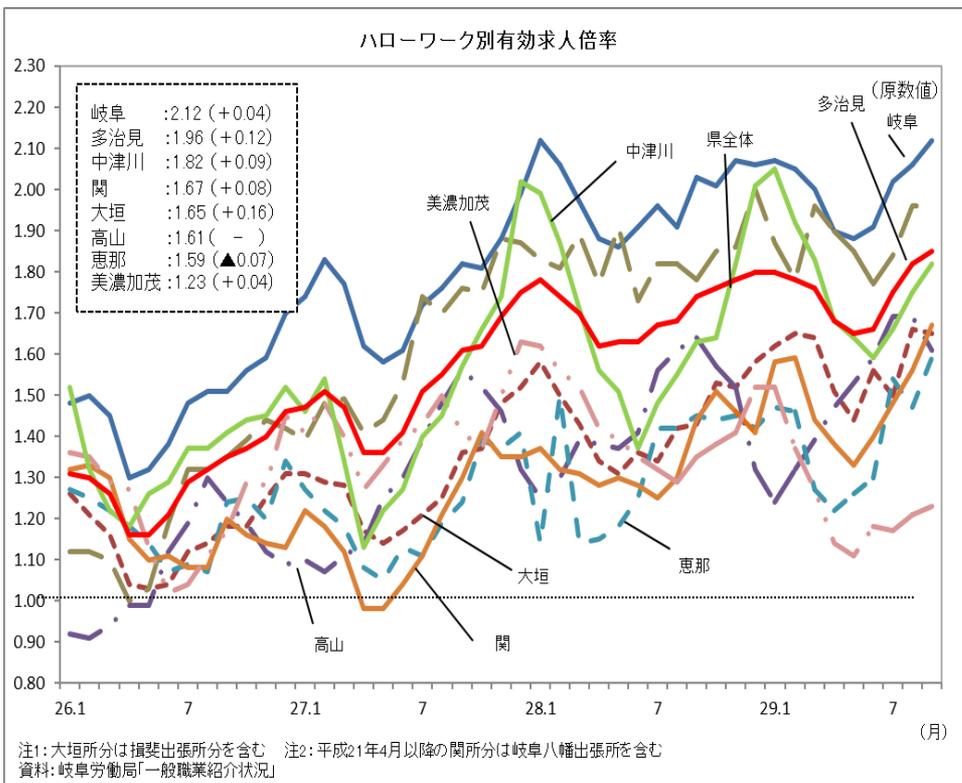
雇 用(職業別)

- 各分野において人手不足の状態。特に建設・採掘の求人倍率約6.1倍や、介護関連の求人倍率3.7倍など、専門人材の不足が引き続き顕著になっている。
- また、サービス職3.1倍、販売職2.8倍などサービス産業においても人手不足は深刻。
- 一方で、事務職の求人倍率は0.6倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

- 9月の主要産業の新規求人数は、前年同月比でははん用機械が41.8%、生産用機械が24.0%、金属製品が21.0%と大幅に増加。一方で、窯業・土石▲9.0%、電気機械▲18.7%、それぞれ減少した。



雇用(地域別)



○9月のハローワーク別有効求人倍率は、恵那と高山以外が上昇し全体的に有効求人倍率が高止まりしている。特に関は平成22年以降で過去最高となっている。

現場の動き(先月比)

- <ハローワーク岐阜>
 - ◆求人者数はやや増加、求職者は横ばい。
 - ◆雇用保険受給者数は増加。
- <ハローワーク大垣>
 - ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや減少。
 - ◆雇用保険受給者数はやや減少。
- <ハローワーク多治見>
 - ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや減少。
 - ◆雇用保険受給者数はやや増加。

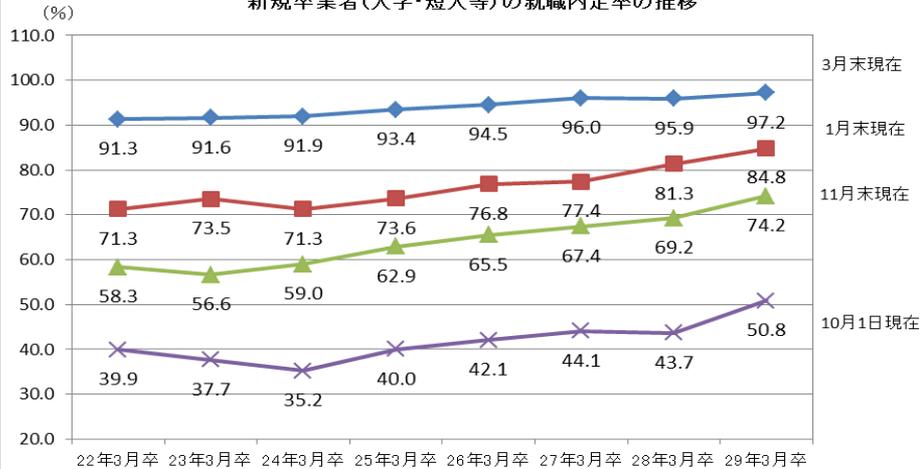
- <ハローワーク高山>
 - ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
 - ◆雇用保険受給者数は増加。
- <ハローワーク恵那>
 - ◆求人者数、求職者数ともに横ばい。
 - ◆雇用保険受給者数は横ばい。
- <ハローワーク関>
 - ◆求人者数、求職者数ともに横ばい。
 - ◆雇用保険受給者数は増加。

- <ハローワーク美濃加茂>
 - ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
 - ◆雇用保険受給者数は減少。
- <ハローワーク中津川>
 - ◆求人者数は減少、求職者数はやや減少。
 - ◆雇用保険受給者数は減少。
- <窓口の様子>※前月比
 - ◆多治見は先月よりやや空いている。
 - ◆多治見以外の窓口は前月並み。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

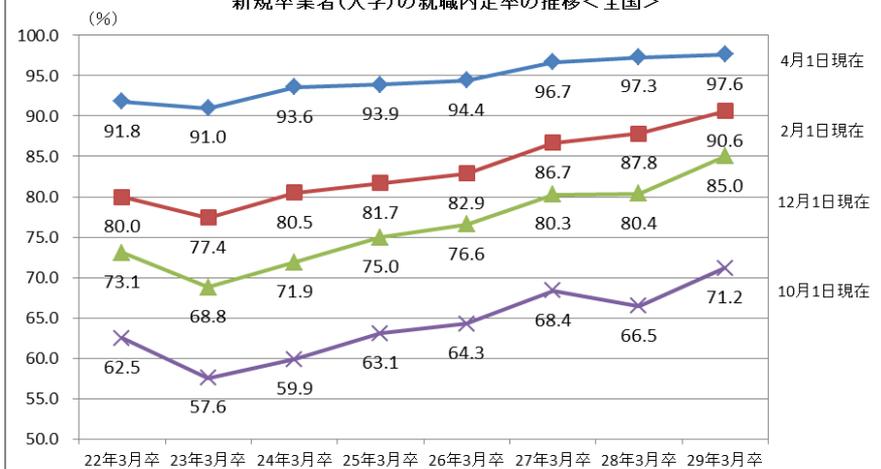
○3月末時点の大学・短大卒業者(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比1.3ポイント増の97.2%となり、直近8年で最も高い内定率となる。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移



資料: 岐阜労働局「新規大学等者の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(平成30年3月卒の動き)

<18年卒就職活動の総括>

- ◆企業は人手不足感の高まりから採用意欲を前年よりもさらに高め採用に臨む一方で、学生は業界研究やインターンシップを通じて働くことに関してある程度イメージを持って就職活動に臨む傾向にあった。
- ◆企業はエントリーした学生とすぐに接触し、選考までハイペースで進捗。
- ◆学生は前年よりも「売り手市場」であることを早くから感じ取り、大手企業を志向する割合が増加。
- ◆また、「働き方改革」などの労働問題が多く取り上げられる中で、労働環境の整備や、福利厚生が充実している企業を志向する学生が増加。(以上、マイナビ「2017年度新卒採用就職戦線総括」より抜粋)

<大学へのヒアリング>

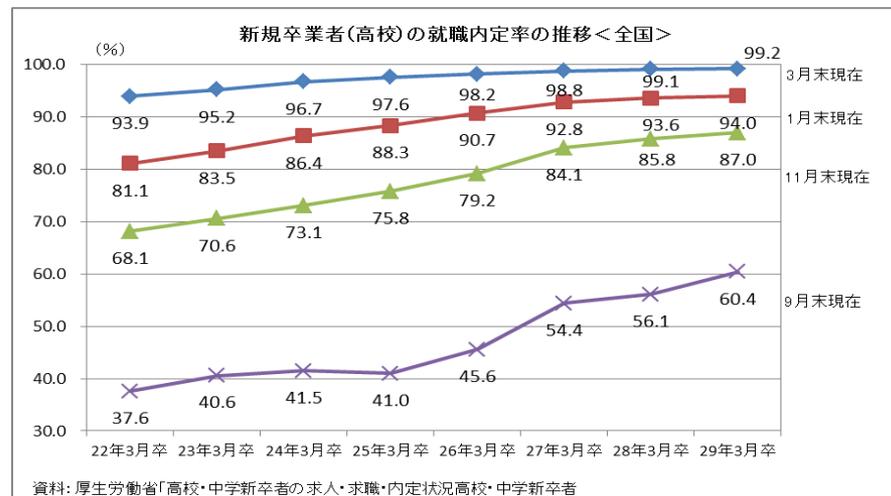
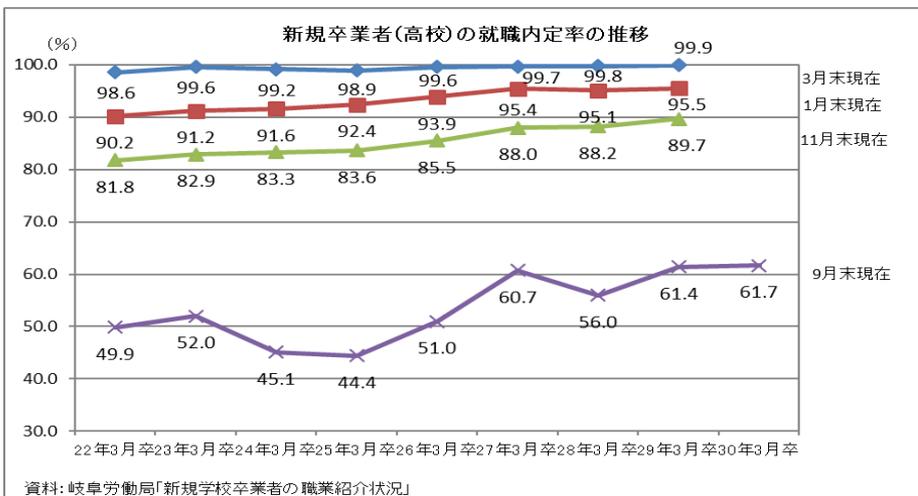
- ◆内定率は集計中。決まっていない学生には個別面談し、職員会議や教授会議で情報共有している。(県内大学)
- ◆18卒生の10月末時点内定率は75%程。決まっていない学生には企業とのマッチングをしている。(県内大学)
- ◆18卒生の10月末時点内定率は90.4%。前年同月比で7%ほどアップした。(愛知県内の工業大学)
- ◆18卒生の10月末時点内定率は80%。就職が決まっていない学生も卒論に手一杯。(愛知県内大学)

雇 用(高校新卒者の就職)

○29年9月末時点の高校卒業者(平成30年3月卒業)就職内定率は、前年比0.3ポイント増加し61.7%となり、直近9年間の9月末時点の内定率では最も高い値となっている。

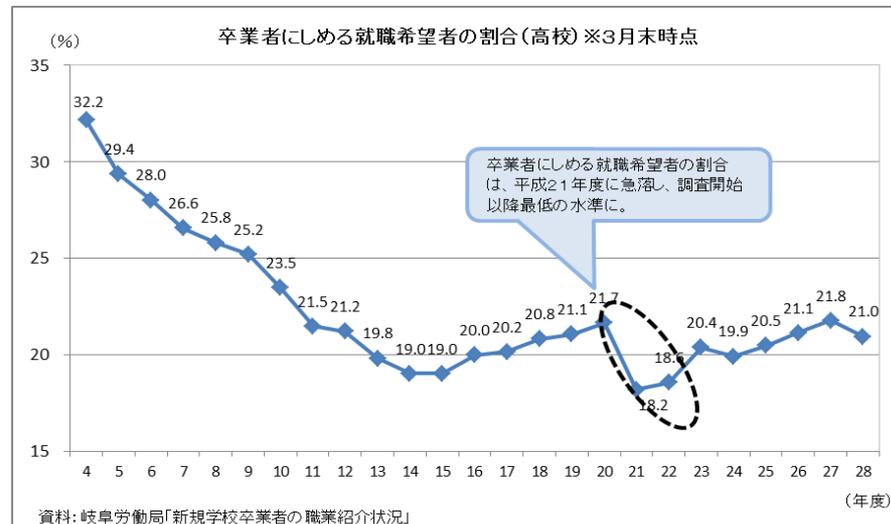
○全国の就職内定率は現在算定中。

○平成28年度卒業者における就職希望者の割合は、4期ぶりに低下した。



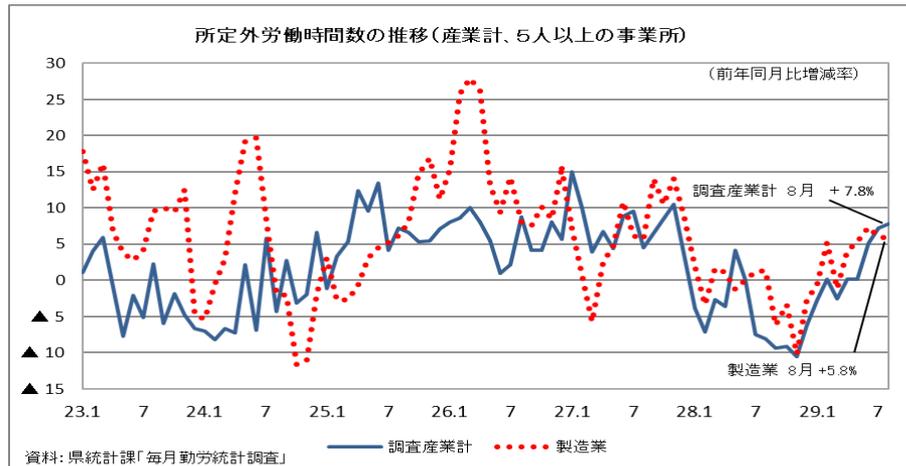
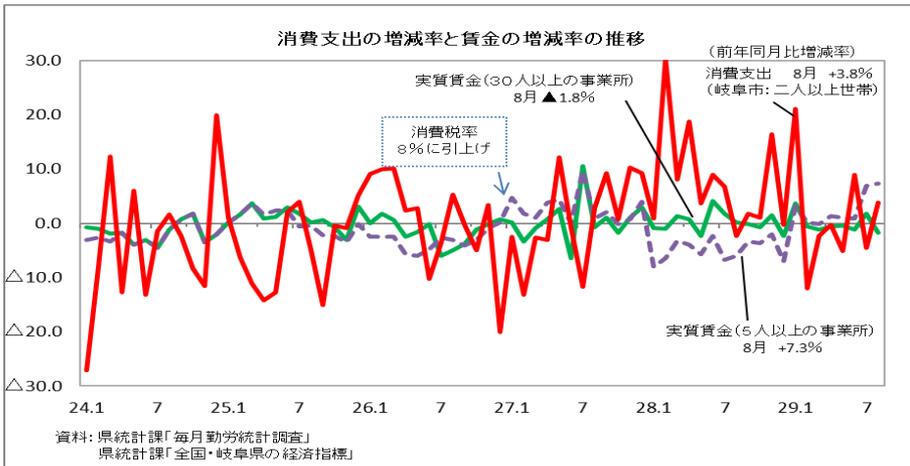
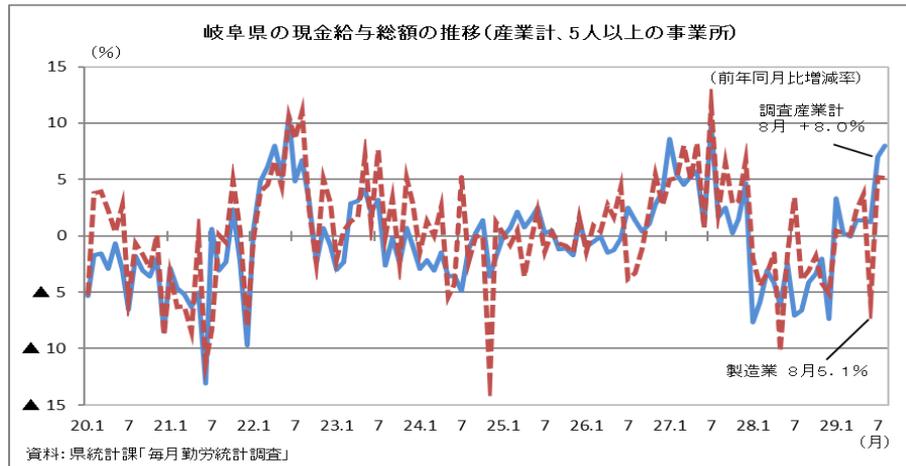
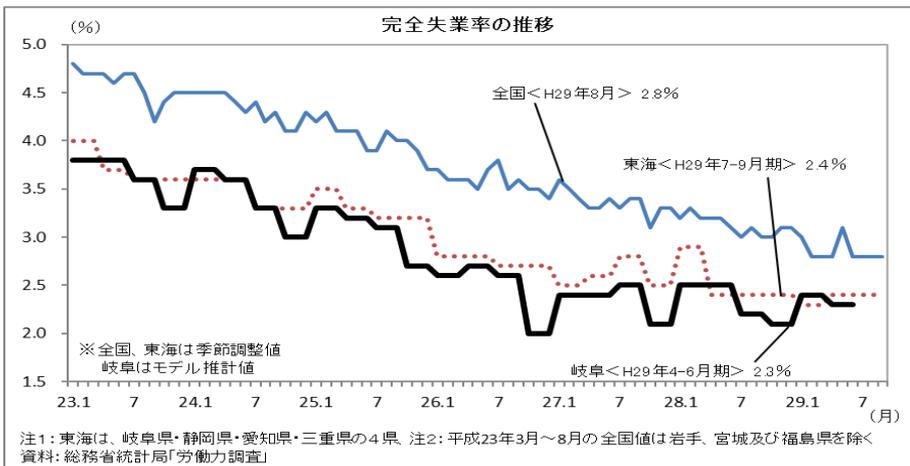
現場の動き(H30.3卒の求人状況)

- <ハローワーク岐阜> 求人は増加。
- <ハローワーク大垣> 求人は増加。
- <ハローワーク多治見> 求人は増加。
- <ハローワーク高山> 求人はやや増加。
- <ハローワーク恵那> 求人はやや増加。
- <ハローワーク関> 求人は増加。
- <ハローワーク美濃加茂> 求人は増加。
- <ハローワーク中津川> 求人は横ばい。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の9月の完全失業率は2.8%と前月比横ばい。東海地方の平成29年7-9月期の完全失業率も2.4%と前期比横ばいとなり、失業率は低位安定している。
- 8月の岐阜県の現金給与総額は、前年同月比8.0%増加、製造業で5.1%と堅調に推移。
- 8月の賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比7.3%増加、30人以上の事業所においては同1.8%の減少となったが、消費支出については同3.8%増加と賃金と消費に明るい兆しが見える。
- 8月の所定外労働時間数は前年同月比7.8%増加。製造業においては5.8%増加した。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、一部の業種で鉱工業生産指数に弱含みがみられるものの、輸送用機械をはじめとして底堅い推移がみられる。自動車産業を中心に好調を示すヒアリングも多くみられており、全体としては上向きの動きが継続している。
- 地場産業は、海外製品等との競合、国内需要の低迷、原材料費高騰による収益の圧迫など厳しい状況が継続しているが、輸出など一部に持ち直しの動きも見られる。
- 設備投資は、設備投資意欲DIIには改善がみられ、国内の金属工作機械受注額は前年同月比で大幅に増加するなど、業績な好調な企業を中心に設備投資意欲が高まっている。一方で地場産業や中小企業には設備投資に後ろ向きな姿勢も見られる。
- 個人消費は、新車販売台数(軽自動車含む)は引き続き堅調な推移を見せ、大型小売店の販売額も前年を上回るなど、持ち直しを見せている。また、現金給与総額や実質賃金についても2ヶ月続けて改善するなど緩やかな持ち直しの動きが継続している。
- 観光は、9月は前年と比較し、1ヶ月を通し降水日が少なかったことや、テレビや映画等で話題になった施設への入込客数が多く、全体として前年同月を上回った。
- 企業の資金繰りは、借入難易感DIIは金融機関の積極的な融資姿勢から、借入しやすい状況が継続。一方で、資金繰りDIIは悪化しており、事故報告件数が前年同月比で3ヶ月連続で増加、倒産も相応に発生するなど、小規模企業には厳しい状況が継続。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、良好に推移しており、総じて県内の雇用情勢は引き続き改善している。但し、大手志向の強まりや、求人と求職のミスマッチ等により、多くの中小企業では採用難に陥っており、人手不足が慢性化しているとともに、人件費の高まりが収益を圧迫し始めている。